

帯広市男女共同参画情報誌

カスタネット

Vol.30 2015.10

第13回 女と男の一行詩・最優秀作品/「ありがとう」言われたときの嬉しさは 男も女も 変わらない

特集 男性介護



日本では268万人の男性が介護者（15歳以上でふだん家族を介護している人）となっています。また、家族を介護している雇用者は240万人おり、介護や看護で離職した人は1年間で15万人もいます。※

育児・介護休業法では、介護休業（対象家族一人につき通算93日まで）や介護休暇（対象家族一人につき年5日まで）が認められています。一定の条件を満たすと介護休業給付（雇用保険）を受けることもできます。

※厚生労働省「平成24年版働く女性の実情」（介護者・雇用者数）、内閣府「平成27年版男女共同参画白書」（離職者数）

topics

■男女共に助け合う介護

■介護の現場から～

- ・帯広市社会福祉協議会
- ・男性介護者に聞く

■団体紹介：帯広市つくし会

「カスタネット」とは・・・2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

男女共に助け合う介護

これからは誰もが介護を担う時代に

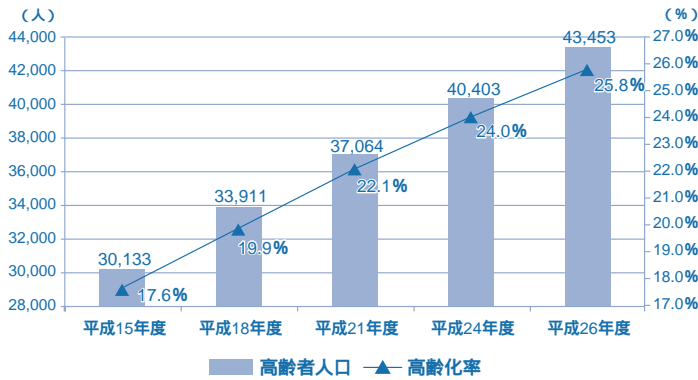
近年、核家族化など様々な理由から男性が介護にかかわるケースが増えてきています。女性が介護の役割を担うことがこれまで多かったですが、これからは家庭での固定的な役割分担意識を見直し、男女が共に家族として責任を担うことが必要です。

高齢化の状況

帯広市の高齢者人口は、介護保険制度がスタートした平成12年の年度末人口26,875人（高齢化率※15.5%）から、平成26年の年度末には高齢化率が25%を超えて高齢者人口が43,453人まで増加しており、約4人に一人が高齢者という社会になっています。

※65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合

帯広市の高齢者人口と高齢化率



要介護の現状

高齢化の進行に伴って、要介護（要認定）認定者数が年々増加している現状が見て取れます。

帯広市の要介護認定者数

(単位：人)

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
要介護認定者数	7,703	8,101	8,492
要支援1	1,122	1,184	1,288
要支援2	1,156	1,235	1,373
要介護1	1,822	1,923	2,083
要介護2	1,236	1,309	1,313
要介護3	791	848	885
要介護4	783	808	832
要介護5	793	794	778

※実績値は、年度の平均値である。

介護の担い手

介護の担い手の状況は、厚生労働省の「国民生活基礎調査」によると、同居の主な介護者のうち約7割が女性となっています。

しかし、男性の介護者も平成19年の28.1%から平成25年の31.3%と着実に増加してきています。

介護の負担は就業に影響が大きく、平成26年の非就業者のうち、過去3年間に看護・介護を理由として離職した者の人数は女性12万人、男性3万人となっており、核家族化などにより、介護と仕事の両立が難しい状況になっていると考えられます。

介護の現場から

帯広市社会福祉協議会

介護訪問サービス事業などを行っている帯広市社会福祉協議会にお聞きしました。

「介護の現状」

帯広市社会福祉協議会では現在約250名の要支援者・要介護者の介護サービスを行っています。男性介護（夫・息子等）の家庭は約4分の1で、介護休業を取得して介護されている家庭はほとんどなく、年金暮らしで老老介護が多い状況です。介護している方の女性と男性の割合は3対1程度です。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識が強い夫が、妻の介助が必要なきにも、妻が家庭のことを守り何でもできると思っている、ヘルパーを断ったりすることもあります。

「介護にあたってのアドバイス」

在宅で男性が介護する場合、食事を食べさせる時になかなか食べてくれない、あきらめる方が多かったです。母親が息子からの身体介護は嫌がったりということがあり、ヘルパーを利用して上手くいくケースが多いです。

また、デイサービスを利用することで、介護者がある時間を気分転換で自分のために使うことができ、介護される方も他の人とコミュニケーションがとれたりします。介護サービスを上手に利用することが一番です。

▼男性介護者に聞く

市内で親・妻の介護に奮闘されている消しゴム版画家の山田泰幸さんに御自身の体験などについてお話を聞きました。



やま だ やす ゆき
山 田 泰 幸 さん

玄関を開けると素晴らしい「消しゴム版画」が目に入ります。東京での展示会準備に忙しい中、黒猫ちゃんと迎えてくれました。

昭和51年父親の介護が必要となったのをきっかけに、自宅で介護しようと決断し、東京の会社を退職、帰郷し、両親と同居しました。

平成7年には妻も脳梗塞（要介護5）になり、介護が必要になりました。80歳を過ぎた母と40代の泰幸さんが父と妻を介護することにしました。

自宅に階段昇降機を設置し、帯広市のユニバーサルデザインの補助制度を使って段差の解消を行いました。

介護サービスを利用し、現在は、日曜日はデイサービス、月々土曜日はヘルパー派遣、週4回は給食サービス、火・金曜日は訪問リハビリ・入浴介助など利用しています。

通院には介護軽自動車を使用しています。一日

3回御飯とお味噌汁は泰幸さんが作っています。少額で利用できる見守り携帯電話も強い味方となっています。102歳になられた母（要介護3）と妻とを泰幸さんの息子さんと二人で介護保険・介護サービス・配食サービス等を利用しながら20年以上介護生活をされています。

長期間の自宅介護で大切にしていること、ストレス解消方法などをお聞きます



* 一日で連続して取れる睡眠時間は2時間ごとで、最低でも6時間は取るようにしています。あとは、日中でも5分・10分でもこまめに取るようにして体力を維持しています。

* ストレス解消のため、鼻歌を歌っていることが多く、これが周囲を明るくします。息子さんが在宅のときはカラオケやボランティアの会合など誘われると断らないで行くことにしています。

* 自宅でできる仕事を開発することが大切です。（消しゴム版画の著作、講師活動など）

* 一日24時間、介護されている人なるべく一人にしないようにしています。

* 介護を一人で抱え込まないで、介護保険等介護サービスを利用することが大切です。

〜取材を終えて〜

介護は男性にとっても、身近な問題になってきているなあと実感しました。

男性が主な稼ぎ手の場合、介護離職が家計に及ぼす影響は深刻です。山田さんのように自宅で出来る仕事を開発することは誰にでも出来ることはありません。

介護と聞くだけで不安になってしまわずし、介護の負担だけでなく家事で苦勞する男性介護者が少なくありません。日頃から、自分のことは自分で出来るように生活を身につけておく必要があると思います。また、同じ悩みを抱える仲間との交流や本音で話せる場があることが大切だと思います。

そして、使える介護サービスや制度を上手に組み合わせる利用する、困ったことや不安がある場合は一人で抱え込まず相談窓口を利用する、身近な人に話を聞いてもらうことも介護の秘訣のようです。

これからは、介護休暇制度の充実や短時間勤務、テレワークなどの柔軟な働き方が選択でき、仕事と介護の両立が出来る方法を考えていく必要があると思います。

また、普段の生活の大切さを再確認させられました。

● 帯広市つくし会 ●

女性自らエンパワーメント（人生を主体的に生きる力）をつけ、社会活動への参画を進め、活動している団体を紹介します。

「帯広市つくし会」会長の池山廣美さん、副会長の真野節子さん、理事の甲谷千春さんにお聞きしました。

「我が幸は、我が手で」を理念に、戦後、夫と死別された方々が全国各地で組織を設立され、帯広市でも昭和35年に「帯広市母子会」として結成されました。その後、平成12年5月に「春一番に芽生えるつくし、親、子、地域につくす」という広い意味を含めて「帯広市つくし会」に改称しました。

平成26年の母子及び寡婦福祉法の改正により母子家庭だけでなく父子家庭のお父さんの入会があり、名実ともに男女共同参画になりました。

お互いに助け合い、励まし合い、そして自立することを目指し、死別、離別の理由を問わず20歳未満の児童を扶養しているひとり親家庭の人が入会でき、会員数は約100名です。

つくし会では、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を願ってさまざまな事業に取り組んでいます。市の委託事業である「ひとり親家庭等日常生活支援」制度や会独自の支援制度である「お助けネット事業」で市の制度が利用できない部分に低料金で支援をしています。また、母親の自立を促す制度として、資格をとるための制度利用のお勧めや、高校生には奨学金制



度もあります。例会や親と子のつどいなどの行事を行い、思い出つくりや会員同士の親睦をはかっています。みんなで力を出し合って、ひとりひとりが出来ることを協力して活動しています。

全道、全国の同じ境遇の仲間たちと手をつなぎ、小さな悩みや願い事を出し合って、今の生活がより良くなるように、関係機関

や行政に働きかけています。児童扶養手当や修学資金を借りる制度ができるよう働きかけに努力してきました。

若い人の参加が少ないという課題もありますが、先輩たちの生き様を見て勇気をもらい、地味で目立たない活動を地道に55年続けてきました。

一人で子育てしている状況は同じ、お互いに共感し合えることは沢山あります。今後親と子どもの幸せのために会の活動を継続していきたいと考えています。

取材を終えて、女性の行動力で社会を変えられるのではないかと勇気をもらいました。

◆ 連絡先 0155-48-11408

(会長 池山廣美) まで

URL <http://tukusi2008.web.fc2.com>

帯広市男女共同参画推進員 出前講座

帯広市男女共同参画推進員は市民協働のパートナーとして、市の男女共同参画推進に協力し、情報誌の企画・編集やセミナーの企画・運営、出前講座で朗読劇などを行っています。

2015年10月14日に、十勝私立幼稚園連合父母の会の委員会で行ったという性別役割分担意識について考えるお話です。

参加者からは「お互いの感謝の気持ちをお忘れず協力して家事・育児を行うことが大切」、「夫にも聞かせたかった」、「家に帰ってから役割分担について改めて話し合いたい」という感想や意見が出されていました。

他にもいろいろな朗読劇を用意しており、団体やサークルなどにお伺いします。

推進員も募集しております。

詳しくは男女共同参画推進課までお問い合わせください。



皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 FAX：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成27年10月発行

● 発行：帯広市

● 企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

清水マチ子・池田 淳一・伊藤 容子

遠藤 妙子・沼田 秀実・浦端 昭道

宮本奈津子